

## Ⅸ. 令和7年度学校経営の重点的な取り組み

### 1. 主体的に学習に取り組む生徒の育成 「複眼思考で」

- (1) これまでの蓄積と3年間のつながりを大切にし、「地域」をキーワードに、遊佐町の資源、人材等を活用し、総合的な学習の時間を核として教科横断的な「探究的な学習」に取り組む。
- (2) 各教科において主体的に取り組む生徒の育成と学習内容の定着を目指した授業を実践する。
  - 各教科3年間で育てたい資質・能力を明らかにした単元計画と評価の基準をより生徒が理解しやすい形で示す。
  - 短い期間での学習評価を行い（授業の様子、単元テスト、小テスト、作品、レポート等）、生徒のつまずきの早期発見、解決策を指導・支援し、生徒も自分で考えて取り組む授業を目指し、学習内容の定着を図る。
  - 模擬テストを1・2年は年3回、3年は年5回行い、学習した内容の定着状況を客観的に把握し、進路の実現に向けた生徒の学びや指導に活かす。生徒が目標を持って模擬テストに取り組めるように指導・支援していく。
  - 授業との連動、個々の興味関心に応じた学び、AIドリルの活用など、生徒がプランニングし、主体的で計画的な家庭学習となるように学年段階に応じて指導・支援していく。

### 2. 組織的な取り組みで特別支援教育の充実 「誰一人取り残さない」

- (1) 特別支援教育（インクルーシブ教育）に関する研修等を行い、基礎的な知識や対応方法等を全職員が身に付け、全校で支援体制を進める。
- (2) 特別な支援を必要とする生徒を把握し、必要に応じて「個別の指導計画」の作成・活用を図り、一人一人の教育的ニーズに対応できるように取り組む。

### 3. CS、地域学校協働活動、各関係機関との協働・連携で地域と一体となった学校づくりの推進 「持続可能な」

- (1) スローガンゴール2030を見通し、「持続可能な遊佐中」を生徒・保護者・同窓生・地域・教職員が一緒に考え、具体化に向けて取り組む。
- (2) 関係機関、企業、商工会等と連携し、自然・歴史・文化、企業・職業、地域で活躍する職業人等に学び、生徒自身のキャリア形成に役立てる。
- (3) 持続可能な部活動（スポーツ・文化活動）に向け、「休日部活動地域移行」を町教委、関係機関等と連携しながら、令和7年度から実施していく。
- (4) 「15歳の姿」を共有し、9年間で育みたい資質能力を明らかにし、小中一貫教育を推進する。また、総合、キャリア教育の推進と郷土愛の醸成を図るために中高の連携を進めていく。